

## ○平成25年度第1回検討会議の振り返りについて

## 【平成25年度の取組の進め方】

分類	番号	意見等	考え方
考え方をお示しするもの	1	エリアや名称を決めるのではなく、実施する内容からもう一度考え直していく方法もある。	下京区西部エリア活性化の検討を進めるという大命題はブレないように取り組みたい。
	2	検討会議の議論内容については、25年度の取組の柱立てのどの部分を議論し、今後どのようなアウトプットに繋がるかを示した方が良い。	25年度の検討は、取組の全体や時点を示しながら議論を進めることとしている。
	3	検討会議以外の活性化の取組とも、連携する必要がある。	連携の輪を広げながら継続的に取組ができる仕組みを検討していきたい。
	4	「24年度活動報告書」を今後どのように反映していくのか。	現地を踏査した際の生の意見を再認識し、25年度の検討会議の議論に生かすためのツールとして活用したい。
	5	情報発信は、どのような方法で行うのか。	平成25年度の取組としては、マップの作成配布、SNSの活用及び市民しんぶんなどにより情報発信をする。
	6	お金は誰が負担するのか。	平成25年度については活性化に向けた具体的取組のキックオフの年であり、京都市の予算により検討会議の事業として実施する。平成26年度以降、より広がりを持たせていけるよう検討を行っていきたい。
	7	下京区西部エリアの活性化とは何か、対象、目標、期日、成果を明確にする必要がある。	京都市では、平成24年3月に策定した「はばたけ未来へ！京プラン実施計画」に基づき、民間施設等が多数集積する下京区西部エリアにおいて、これまで個別に進められてきた取組を連動させ、一体的な相乗効果が発揮できるよう民間活力を活かした地域全体の活性化を目的とする将来構想を27年度までに策定し推進することとしている。 また、平成23年3月に策定した「下京区基本計画」においても、梅小路公園の新しい水族館や鉄道博物館をはじめとした集客施設のインパクトをまちぐるみで地域の活性化に結びつけ、まちの活力を高めるとともに、地域資源などまちの個性を生かし、魅力を高めることをまちづくりのテーマに掲げている。
	8	将来構想とは何か。何のために構想をつくるのか。構想によってこのエリアはどうなっていくのか。	そこで、当該エリアの将来構想に向けた最初のステップとして当該検討会議を開催し、委員の横の連携を図る中で地域のポテンシャルや活性化のアイデアについて検討し、地域活性化の機運の醸成を高めることを目的とし取り組んでいる。
	9	「6つの資源」をひとつくりにして取組を進めることは無理がある。	検討会議で資源毎に議論を深めることとしている。
	10	資源ごとに「活性化の対象」が異なる。資源ごとの対象、資源間連携などしっかり掘り下げる必要がある。	全5回の検討会議を通して、個別の資源の活性化方策や各資源を結ぶ方策の検討を深めていきたい。

分類	番号	意見等	考え方
参考にさせていただきもの	11	地域連携事業など、具体的な取組を進めていくのは賛成。	エリア活性化の視点から貴重な意見であり今後の議論に生かしていきたい。
	12	各主体が自らの足元を固めて取り組むことが大切。	
	13	地域住民の心を動かす取組をすることが大切。	
	14	「誰に対しての活性化なのか」については、2つの視点がある。 ・地域住民主体のエリア活性化 ・観光客を意識した活性化	
	15	KRPで観光客に対してアピールするのは難しい。KRPの入居者が商店街に買い物に行く等、連携出来ていない部分を伸ばす取組が必要。	
	16	地域住民としての観点から、商店街に活性化してほしい。	
	17	今年是新撰組結成150年の年であり、8月18日が記念の日にあたる。角屋保存会では、4月に新撰組記念碑を造るなど、新撰組ファンを呼び込む努力をしている。情報発信を強化するためにも次回の会議は7月中に開催して欲しい。	角屋保存会には、地域連携プロジェクトチームに参加いただいたうえで、7月末からプロジェクト会議を開催している。

【下京区西部エリアの広報上の呼び名】

分類	番号	意見等	考え方
参考にさせていただくもの	18	この広いエリアを一言で表すのは非常に難しい。	梅小路公園で整備中の広場の名称が公募中であり、その状況を踏まえて検討を行う。 〔 募集期間 6月18日～8月23日 〕 〔 決 定 9月下旬頃 〕
	19	「下京区西部エリア」という呼び名は、地元としては違和感がある。	
	20	「梅小路」「朱雀大路」「平安京の中心部分」を名称に入れる。	
	21	「京の玄関」「はじめの一步は下京区」「京のはじまりは朱雀下京」観光客は必ず京都駅を通る。京都のはじまりがこのエリアだということを示すキャッチコピー。	
	22	「西烏五八(にしからごはち)」対象エリアが概ね西大路・烏丸・五条・八条の通りに囲まれた部分である。	
	23	「梅小路本願寺エリア」エリアの位置を示すような名称。	
	24	「下京区朱雀大路界限」梅小路公園に新たに整備される「すざくゆめ広場(仮称)」にちなんだ名称。	
	25	「下京ラグーン」	
26	「梅小路エリア」梅小路公園が今後一層脚光を浴びるエリアになる。一方で、対象エリア全体を表すものとは言い難いという問題がある。		

【地域連携事業(取組方針)】

分類	番号	意見等	考え方
考え方をお示するもの	27	企業目線としては、良いものがないと人は来ないし、実績づくりだけの事業では良いものはつukれない。	具体的に地域連携事業に取り組む一方、将来像を見据えた方策を検討会議で議論していきたい。
	28	地域連携事業は、いったい誰と誰の連携なのか。それぞれの連携の在り方を考えていかないといけない。	検討会議に参画していただいている、団体メンバーがお互いに顔がわかりあえる関係になったことを事業を行うことを通して結びつきを強めていく取組と考えており、更に多くのプレイヤーや協力者とのネットワークを広げていくことが課題だと認識している。
	29	回遊先を魅力的にする事業を掘り起こすことを考えて欲しい。	ウォーキングツアーなどの地域連携事業を企画することにより、回遊先においても新たな魅力づくり事業の企画や既存事業の掘り起こしをすることで、回遊先を魅力的にしていきたい。
	30	検討会議の枠に留まらない工夫が必要。	地域連携事業のプロジェクトチームにおいて事業の具体化を図る一方、検討会議での協議テーマ(エリア・ジャンルを超えた回遊性・連携の整理)などの議論を通して、連携の輪を広げながら継続的に取組ができる仕組みを検討していきたい。
	31	地元で自主的に活動する団体や企業、個人を増やすにはどのようにしたら良いのか。その人達と具体的に何をしていくのかという組み立てについて委員の意見を伺っていく必要がある。	
	32	プロジェクトチームで地域の人々と関わりながら事業ができる仕組みづくりをする必要がある。	
	33	今後も継続して取り組んでいける方法が必要。	
	34	このエリアを住みやすく誇りに思えるための長期的な事業であるならば、ただ人が賑やかに歩くだけではなく、文化などのつながり方を考えられないか。	
	35	龍谷大学などにお声掛けして、若い人の知恵を出してもらうことも必要。	
	36	検討会議外で頑張っているPTAや婦人会の人々の参画やアルバイトとして地元住民を採用するなど、地域の人々と連携することが大事。	
37	将来的には、地域の人々が主体的に活動していくために、地元住民や企業、まちづくり協議会などの担い手を育て、活動を引き継ぐ必要がある。		
38	地域住民から理解を得るか、地域住民自身に頑張る機運がないと継続は難しい。地元と意識を共有した上で、今年度の取組内容を示して欲しい。		
参考させていただくもの	39	東本願寺が、50年に1度の法要時に商店街と連携事業をしてきたが、地域との連携についてその後の展開を模索している。	

【地域連携事業(マップ)】

分類	番号	意見等	考え方
参考にさせていただくもの	40	このエリアのマップは既にたくさん存在しており、行政だけでなく企業でもつくられている中で、本当に今必要なのか。	地域連携事業プロジェクトチームで具体案を検討。 ＜プロジェクトチーム企画(案)参照＞
	41	既存のマップをまずは集めて分析することが必要。	
	42	既存のものが多数出回っているため、目的や内容については事前の検討が大切。	
	43	発行部数を多くし、企業協賛を得やすくして民間活力を活かしながら、少ない費用でのマップづくりが大切。	
	44	継続して使えるよう、メンテナンスについても考えて、計画的に進めた方が良い。	
	45	エリアやポテンシャルの紹介のほかに、「下京区西部エリアの歩き方」を掲載し、ウォーキングガイドとして様々なターゲットの人へ渡すフリーペーパーにしてはどうか。	
	46	地元住民向けのコアな情報も、観光客には楽しんで見てもらえる。	

【地域連携事業(回遊事業)】

分類	番号	意見等	考え方
参考にさせていただきもの	47	既存の民間事業を活用する連携が大切。 ・JR東海主催ウォーキング(年2回・千人程度の観光客を集客) ・京都ツデーウォーク等で、下京区西部エリアをルート化。	地域連携事業プロジェクトチームで具体案を検討。 エリアの中長期的戦略としても貴重なため、意見やアイデアを踏まえて可能なところから実現していく。 ＜プロジェクトチーム企画(案)参照＞
	48	下京区西部エリアは朝が魅力的である。 ・中央市場は早朝から動いている。 ・本願寺は5時半開門、6時からお勤めが始まり、人が集まる。 ・梅小路公園も朝の散歩スポットになっている。	
	49	「朝活(あさかつ)」のように、今ある魅力を捉えなおすことが大切。	
	50	「食べ歩き」の観点が大事。 ・「B級グルメ」に沢山の人が集まる。 ・「新撰組だんご」をつくる。	
	51	エリア外の様々な場所と連携することによって、更に下京区西部の活性化に繋がられる。新撰組については、中京区や霊山歴史館なども頑張っている。	
	52	商店街に観光客や市内の来訪者が流れ、お金を使ってくれる仕組みづくりが必要。 ・商店街共通の目玉商品をつくって魅力を発信する。	
	53	今後の動線をどう考えていくのか。 ・回遊性向上に向けたコース設定 ・水族館シャトルバスのような下京区西部に人を運ぶツール	
	54	事業骨子案でキックオフを10月5、6日としているが、既存事業に「下京区西部」の冠をつけるだけでは弱いのではないか。	

【地域連携事業(SNS)】

分類	番号	意見等	考え方
参考にさせていただきもの	55	フェイスブック等のSNSから情報が広がれば、エリアの魅力を様々な人が再発見でき新たなつながりができる。	地域連携事業プロジェクトチームで具体案を検討。 ＜プロジェクトチーム企画(案)参照＞